MITSUBISHI

LAN制御UTILITY
取扱説明書

もくじ

1. はじめに

1.1. ネットワーク機能を使う前の準備

本プロジェクターは、ネットワーク機能（プロジェクター制御/状態監視、メール送信等）を備えています。
このネットワーク機能を使用する前に、次の3つの準備操作を行う必要があります。

- アプリケーションS/W「ProjectorView Global+」のセットアップ
- プロジェクター（本機）のIPアドレス設定

プロジェクターのIPアドレス、パスワード設定、認証設定はプロジェクター本体でも設定できます。詳細については、プロジェクター本体の取扱説明書のネットワーク設定メニューをご参照ください。

1.2. 機能と特徴

- 最大200台のプロジェクターをリモートコントロールできます。
- プロジェクターのIPアドレス等を設定できます。
- グループに複数のプロジェクターを登録して、一括操作できます。
- 接続プロジェクターの各種状態を監視できます。
- グループごとに、電源ON/OFFのスケジュールを設定できます。
- 電源ON/OFFスケジュールは、曜日ごとに設定できます。
- 盗難検知対象に設定したプロジェクターとの通信不能時に、指定したアドレスに警告メールを出すことができます。

1.3. 動作環境

- 対応OS
  Windows XP、Windows Vista
- CPU
  Pentium Ⅱ 233MHz 以上を推奨
- メモリ
  128MB以上を推奨
- HDD空き容量
  32MB 以上を推奨

1. はじめに

Microsoft®、Windows®は、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
（Windowsの正式名称は、Microsoft Windows Operating Systemです。）
Pentiumは、米国およびその他の国におけるインテルコーポレーションまたはその子会社の商標または登録商標です。
その他、記載の会社名および製品名は、各社の登録商標または商標です。
なお、本文中では“®”マークや“TM”マークは明記していません。

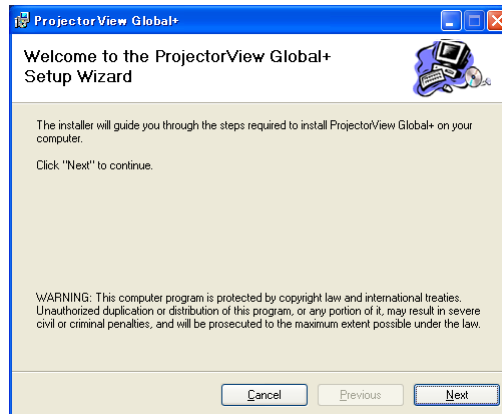
- Windows XPは、Microsoft Windows XP Home Edition/Professionalの略称として表記しています。
- Windows Vistaは、Microsoft Windows Vista Home Basic/Home Premium/Business/Enterprise/Ultimateの略称として表記しています。

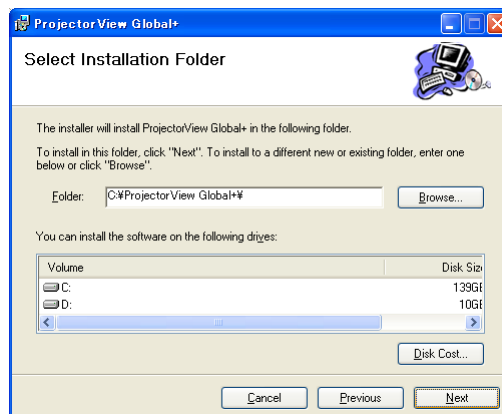
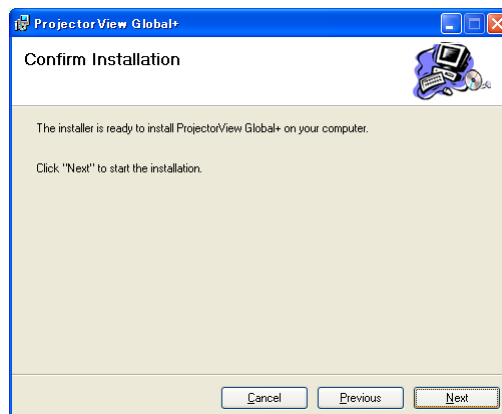
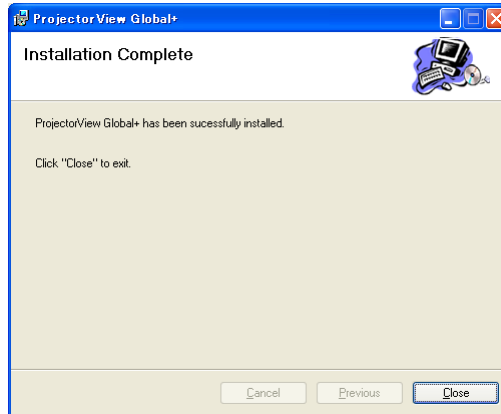
2. セットアップ

2.1. ProjectorView Global+のインストール

インストールする前に、必ずCD-ROM内の「ReadMe」をご覧ください。
付属CD-ROMのToolsフォルダ内にあるProjectorView Global+v3.11_Ja.msiをコンピューターのハードディスクにコピーしてください。

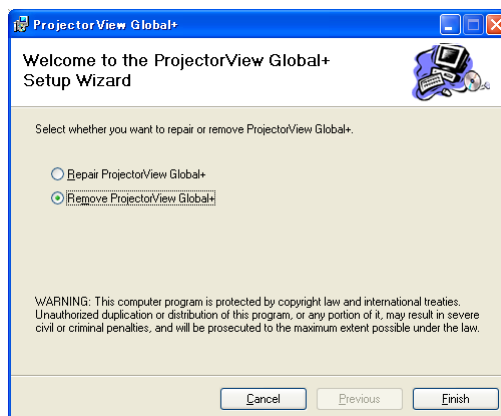
① “ProjectorView Global+v3.11_Ja.msi” をダブルクリックし、ProjectorView Global+のインストーラーを起動する

② セットアップウィンドウが表示されるので、[Next] をクリックする

③ インストールするフォルダを選択し、[Next] をクリックする

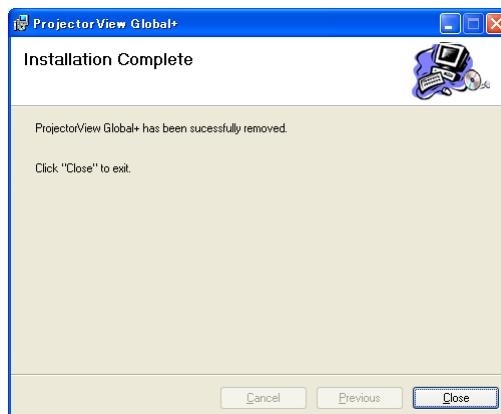
<注>
- Windows Vistaをお使いの場合、インストール先のフォルダは変更しないでください。

④ [Next] をクリックする
- インストールが開始されます。

5 インストールが完了したら、[Close] をクリックする

2.2. ProjectorView Global+を削除する場合は（アンインストール）

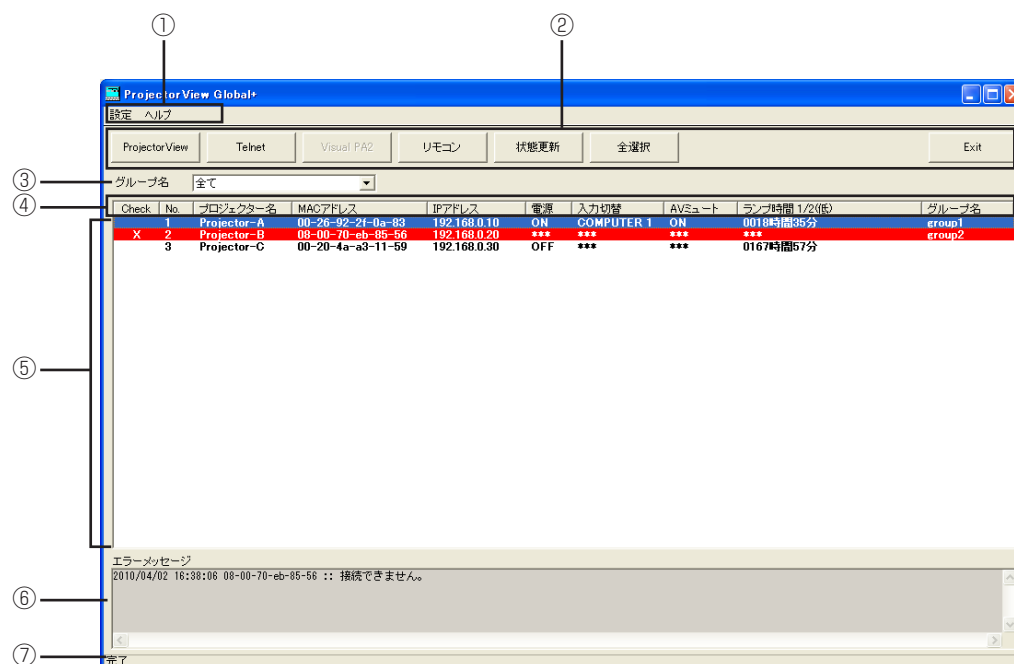
<注>

- ProjectorView Global+をアンインストールする場合は、事前にProjectorView Global+を終了しておいてください。起動したままでは、正常にアンインストールできません。

1 “ProjectorView Global+v3.11_Ja.msi” をダブルクリックし、ProjectorView Global+のインストーラーを起動する

2 “Remove ProjectorView Global+” を選択し、[Finish] をクリックする

- アンインストールが開始されます。

3 アンインストールが完了したら、[Close] をクリックする

- ログや設定ファイルは自動的に削除されませんので、手動で削除してください。

3. メイン画面について

① **メニューバー**

設定　以下の各種設定が行えます。

- グループ新規作成:　新規グループを作成します。
- スケジュール設定:　既存グループのスケジュール設定を編集します。
- 自動検索:　プロジェクターの自動検索を行います。
- IP設定:　プロジェクターのIP設定を行います。
- プロジェクター設定:　プロジェクター設定を編集します。
- メール設定:　本アプリケーションで使用するメール設定を行います。
- プロジェクター検索範囲設定:　ルーターを経由してプロジェクターと通信するための検索範囲設定を行います。
- 環境設定:　本アプリケーションのシステム設定を行います。

ヘルプ　バージョン情報を表示します。

② **ツールバー**

ProjectorView　本機能は使用できません。

Telnet　本機能は使用できません。

Visual PA2　本機能は使用できません。

リモコン　プロジェクターを操作するためのコマンドリモコンウィンドウを表示します。プロジェクターの電源のON/OFF、入力切替が行えます。

状態更新　現在プロジェクターリストに表示されている各プロジェクターの電源、入力切替、AVミュート、ランプ時間（低）の状態を再取得します。
ただし、Power OFFの状態やウォームアップ中、クーリング中では入力切替とAVミュートは再取得されません。

全選択　現在プロジェクターリストに表示されている全プロジェクターを選択状態/未選択状態にします。

Exit　ProjectorView Global+を終了します。ただし、プロジェクターの自動検索中や状態取得中は終了できません。メイン画面右上の☒ボタンをクリックすると状態取得中でも強制終了できますが、Windowsの警告メッセージが出ます。

3. メイン画面について

③ **グループ名**　プロジェクターのグループを選択します。"全て" を選択すると、登録された全プロジェクターが表示されます。作成したグループはリストに追加され、グループを選択するとそのグループに所属している全プロジェクターが表示されます。

④ **ステータスタグ**　プロジェクターのプロパティとステータスを示します。
各タグボタンをクリックする（Macアドレスを除く）と、リストを並べ替える（ソートする）ことができます。

⑤ **プロジェクターリスト表示欄**

選択したグループに所属しているプロジェクターをリスト表示します。
また、プロジェクターのステータスも表示します。
プロジェクターの状態により、下記のように表示の色が変わります。

黒色:　通常時
赤色:　プロジェクター異常時
（→ 通信できない場合は、「8.1. 故障かな?と思ったときは」をご覧ください。）
黒色（背景 黄）:　ランプ寿命警告時
白色（背景 赤）:　盗難検知対象に設定したプロジェクターとの通信不能時
（→ 盗難の可能性がありますので、確認してください。）
灰色:　通信不能時

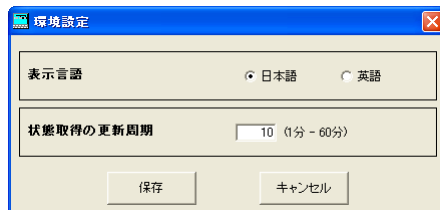
⑥ **エラーメッセージ**　プロジェクターとの通信時に検出されたエラーメッセージを表示します。

⑦ **動作状態表示欄**　ProjectorView Global+の動作状態を示します。リモートコントロールやスケジュールなどによる通信処理中などの動作状態を示します。

3. メイン画面について

3.1. システム設定をする

① メイン画面のメニューバーの "設定" から "環境設定" を選択する

- "環境設定" ウィンドウが表示されます。(初期値は、下記表示例のようになっています。)

項目	内容
表示言語	表示言語を日本語もしくは英語で選択できます。
状態取得の更新周期	プロジェクターの状態取得を行う周期を設定できます。1分～60分の間で、整数値で設定します。

② 希望の設定に変更し、[保存] をクリックする

- 変更した設定を反映させるには、ProjectorView Global+を再起動する必要があります。

4. プロジェクターを登録する

4.1. 接続

ProjectorView Global+をインストールしたコントローラーPCとプロジェクターを、市販のLANケーブルまたは無線LANアダプターで接続してください。

複数のプロジェクターを接続する場合には、市販のハブなどを使用して接続してください。

- コントローラーPCには、LAN端子または802.11b/g/n 無線LANアダプターが必要です。
- LANケーブルは、カテゴリー5対応、100BASE-T対応のものをご使用ください。
  クロス結線とストレート結線の両方のLANケーブルが使用できます。
  （接続例5と6の場合は、ルーターの取扱説明書をご確認ください。）
- 静電気を帯びた手でLAN端子にふれると、静電気の放電により故障の原因となることがあります。LAN端子およびLANケーブルの金属部分には、触れないようにしてください。
- プロジェクターは、最大200台まで登録できます。

<注>

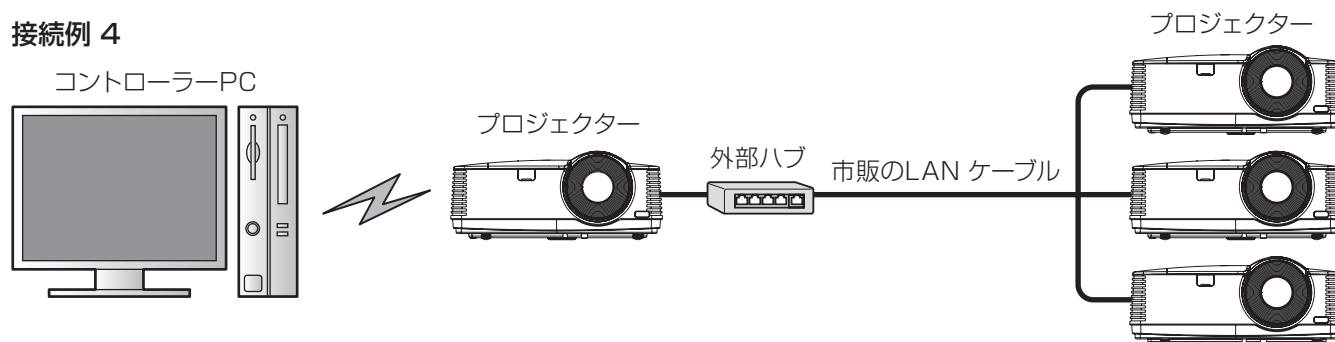
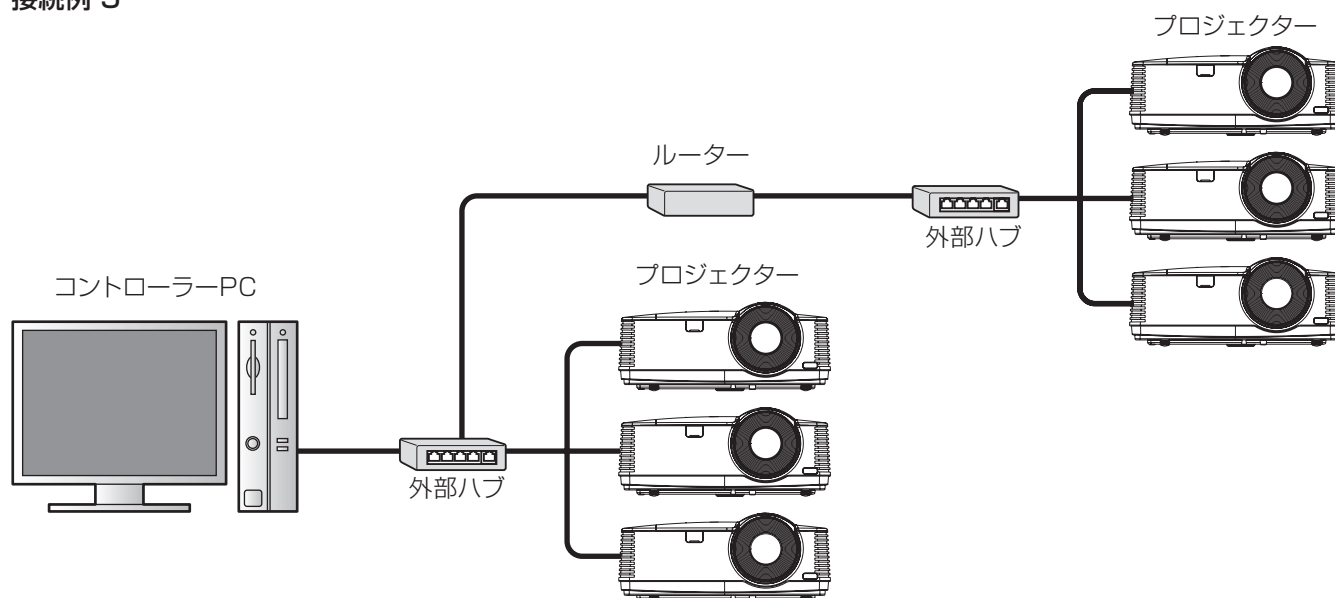
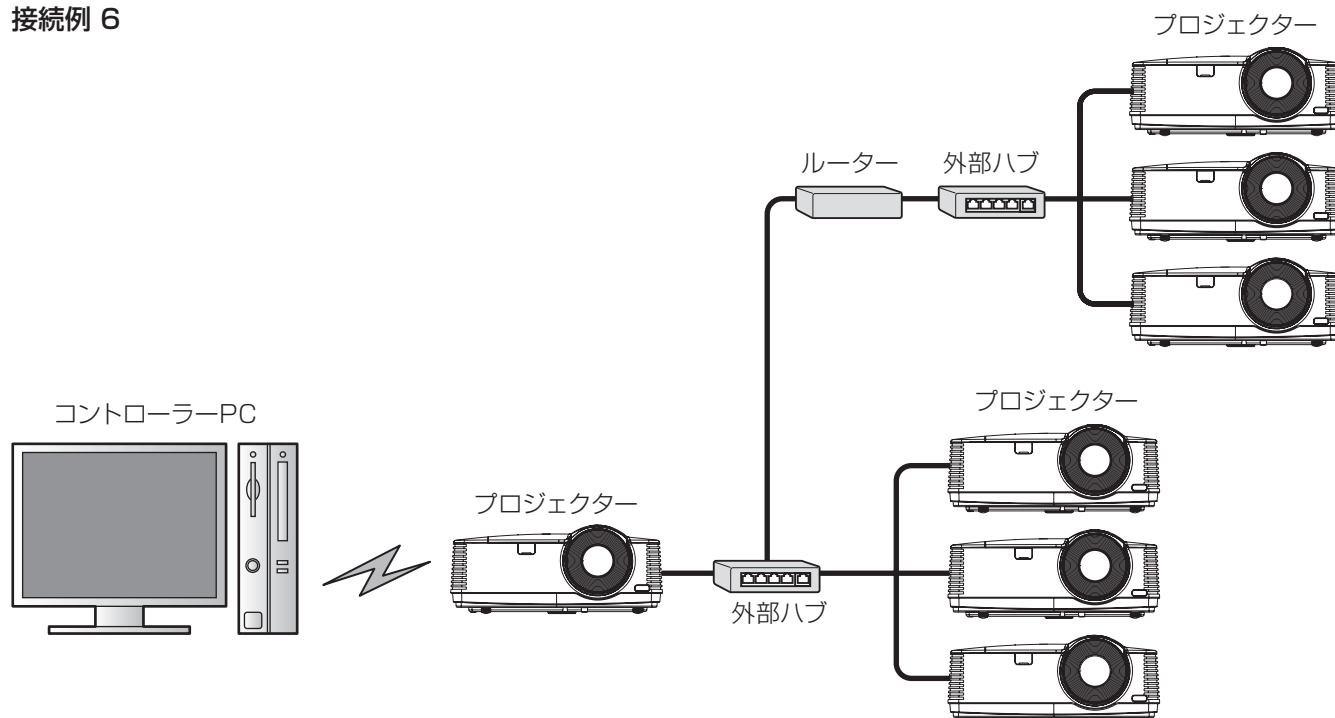
- プロジェクターのスタンバイモードの設定により、LAN機能が利用できないことがあります。LAN機能を有効にするためには、ご使用のプロジェクターの取扱説明書を参照の上、設定を変更してください。
- USB無線LANアダプターの仕様によっては、プロジェクターに使用できないことがあります。

接続例 1

接続例 2

接続例 3

4. プロジェクターを登録する

接続例 4

接続例 5

接続例 6

4.2. プロジェクターをProjectorView Global+に登録する

プロジェクターの登録手順は、前述の接続例により、手順が若干異なります。

- 接続例1〜4（同じローカルネットワーク内にプロジェクターを設置）の場合、当該ネットワーク内のプロジェクターを自動検索し、登録します。詳しくは、下記の手順Aをご覧ください。
- 接続例5、6（ルーターを経由してプロジェクターを設置）の場合、先にプロジェクターが設置されているIPアドレスの範囲を設定し、当該範囲を自動検索し、登録します。詳しくは、12ページの手順Bをご覧ください。
- 登録できるプロジェクターは、最大200台までです。
- 自動検索による登録直後のプロジェクターは、グループが未設定になっています。登録したプロジェクターがメイン画面のプロジェクターリストに表示されていない場合は、グループ選択プルダウンメニューから "全て" を選択してください。

手順A - 接続例1〜4（同じローカルネットワーク内にプロジェクターを設置）の場合

① ProjectorView Global+を起動する

② メイン画面のメニューバーの "設定" から "自動検索" を選択する

- LAN接続しているプロジェクターが自動検索されます。
- お使いのプロジェクターの機種によっては、初回接続時にパスワード認証が必要です。プロジェクター本体等でパスワードが変更されると、再度パスワード認証が必要となります。

<注>

- PCのIPアドレスとプロジェクターのIPアドレスは同じネットワークグループになるように設定してください。（IPアドレスの最終オクテットは異なる数値にする必要があります。）
- 設定したIPアドレスは、必ずメモに残しておいてください。IPアドレスを忘れると、あとで検出できなくなる場合があります。
- 初期設定では、DHCPまたはAuto-IP（169.254.0.1〜169.254.255.254）でIPアドレスが自動的に設定されます。但し、プロジェクターを起動するごとにIPアドレスが変わる可能性がありますので、通信できない場合は再度「自動検索」を行ってください。
- 検索後、プロジェクター本体でIPアドレスを変更した場合、再度「自動検索」を行ってください。
- プロジェクターのIPアドレスは固定のIPアドレスに設定することを推奨します。

4. プロジェクターを登録する

手順B - 接続例5、6（ルーターを経由してプロジェクターを設置）の場合

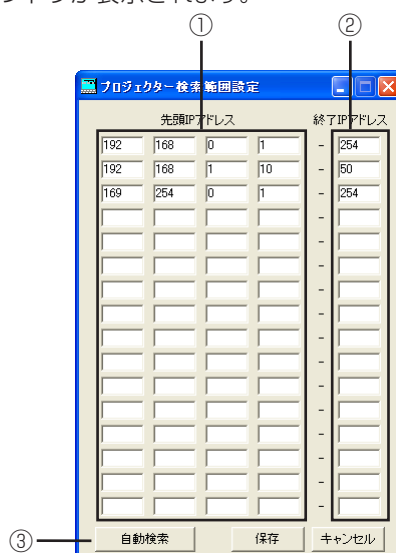
ルーターを経由したプロジェクターを自動検索する場合、プロジェクター本体のネットワーク設定メニューでIPアドレスを確認し、「プロジェクター検索範囲設定」でそのIPアドレスの検索範囲設定を行ってください。

<注>

- 自動検索後もルーターを経由してプロジェクターと接続する場合、対象となるプロジェクターのIPアドレスを含む検索範囲を設定しておく必要があります。

1 ProjectorView Global+を起動する

2 メイン画面のメニューバーの “設定” から “プロジェクター検索範囲設定” を選択する

- “プロジェクター検索範囲設定” ウィンドウが表示されます。

項目	内容
① 先頭IPアドレス	検索範囲の先頭IPアドレスを設定します。 （IPアドレスの第1オクテットと最終オクテットに1〜254の数値、第2オクテットと第3オクテットに0〜255以外の数値が含まれる場合は、設定できません。）
② 終了IPアドレス	検索範囲の終了IPアドレスの最終オクテットを設定します。 （設定数値に1〜254以外の数値が含まれる場合は、設定できません。また、①の先頭IPアドレスの最終オクテットより前の数値を設定した場合は、設定できません。）
③ 自動検索	設定を保存したあと、プロジェクターの自動検索を行います。

3 プロジェクターの検索範囲 (①、②) をIPアドレスで設定する

- 検索範囲は、最大16 まで設定できます。（設定欄の各行ごとに設定できます。）

4 設定を保存する場合は [保存] を、続けてプロジェクターの検索を行う場合は [自動検索] をクリックする

- ［保存］をクリックすると、検索範囲の設定が保存され、プロジェクター検索範囲設定ウィンドウが閉じます。
- 検索範囲の設定を保存したくないときは、［キャンセル］をクリックしてプロジェクター検索範囲設定ウィンドウを閉じます。
- 設定を保存したあとメニューバーの “設定” から “自動検索” を選択すると、保存した検索範囲で自動検索ができます。
- お使いのプロジェクターの機種によっては、初回接続時にパスワード認証が必要です。プロジェクター本体等でパスワードが変更されると、再度パスワード認証が必要となります。

4. プロジェクターを登録する

<注>

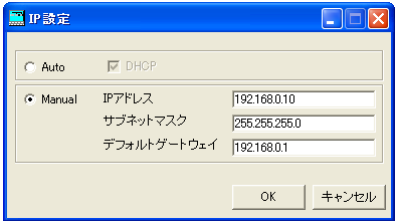
- プロジェクターのデフォルトゲートウェイおよびPC のデフォルトゲートウェイを正しく設定してください。詳しくは、ネットワーク管理者にご相談ください。
- 設定したIPアドレスおよびデフォルトゲートウェイは、必ずメモに残してください。設定値を忘れると、あとで検出できなくなる場合があります。
- 初期設定では、DHCPまたはAuto-IP (169.254.0.1〜169.254.255.254) でIPアドレスが自動的に設定されます。但し、プロジェクターを起動するごとにIPアドレスが変わる可能性がありますので、通信できない場合は再度「自動検索」を行ってください。
- 検索後、プロジェクター本体でIPアドレスを変更した場合、再度「自動検索」を行ってください。
- プロジェクターのIPアドレスは固定のIPアドレスに設定することを推奨します。

4.3. プロジェクターのIP設定を変更する場合は

プロジェクターのIP設定を変更できます。

1 メイン画面のプロジェクターリストから、変更したいプロジェクターを選択する

2 メイン画面のメニューバーの "設定" から "IP設定" を選択する

- "IP設定" ウィンドウが表示されます。

3 自動割当を行う場合「Auto」を選択してDHCPにチェックを入れる。手動で割り当てる場合は「Manual」を選択し、IPアドレス・サブネットマスク・デフォルトゲートウェイを入力する

項目	内容
DHCP	DHCPサーバーによるIP自動割当を行います。
IPアドレス	IPアドレスを入力します。
サブネットマスク	サブネットマスクを入力します。
デフォルトゲートウェイ	デフォルトゲートウェイを入力します。

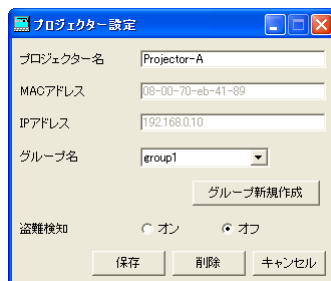
<注>

- プロジェクターのIP変更後、盗難検知エラーダイアログが表示されることがあります。
- プロジェクターのIP設定変更後、通信ができない場合は、「自動検索」を行って接続を確認してください。
- 自動検索後もルーターを経由してプロジェクターと接続する場合、対象となるプロジェクターのIPアドレスを含む検索範囲を設定しておく必要があります。
- サブネットマスク、デフォルトゲートウェイについてはネットワーク管理者にご相談ください。

4.4. プロジェクターの設定を変更する場合は

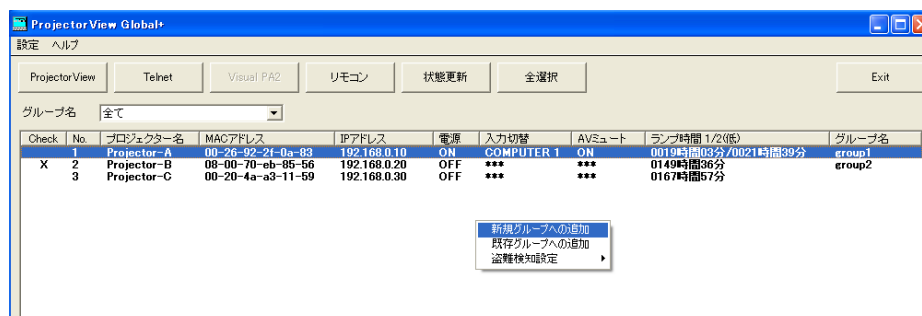
1 メイン画面のプロジェクターリストから、変更したいプロジェクターを選択する

2 メイン画面のメニューバーの “設定 “から “プロジェクター設定” を選択する

- “プロジェクター設定 “ウィンドウが表示されます。

3 プロジェクター名、所属グループ、盗難検知のオン/オフを設定する

項目	内容
プロジェクター名	プロジェクター名を、半角英数字で64文字以内で入力します。
MACアドレス	MACアドレスが表示されます。設定は変更できません。
IPアドレス	IP アドレスが表示されます。ここでは、設定は変更できません。IPアドレスの変更が必要な場合は、［IP設定］で行ってください。
グループ名	所属グループをプルダウンメニューから選択します。 （［グループ新規作成］をクリックすると、新しいグループを作成できます。→「6.1. プロジェクターのグループを作成する」をご覧ください。）
盗難検知	盗難検知のオン/オフを指定します。

<注>
右クリックメニューでも、プロジェクターの設定を変更できます。（複数選択可能）

- 新規グループへの追加:　新規作成したグループへの登録
- 既存グループへの追加:　所属グループの変更
- 盗難検知設定:　盗難検知設定の変更（ON/OFF）

4.5. プロジェクターの登録を削除する場合は

1 メイン画面のプロジェクターリストから、削除したいプロジェクターを選択する

2 メイン画面のメニューバーの “設定” から “プロジェクター設定” を選択する

- “プロジェクター設定” ウィンドウが表示されます。

3 ［削除］をクリックする

- 選択したプロジェクターが削除されます。

5. プロジェクターを操作する

5.1. リモートコントローラーを使って操作する

グループまたはプロジェクター単体で操作することができます。

1 メイン画面のプロジェクターリストから、操作したいプロジェクターを選択する

- 複数のプロジェクターを同時に選択する場合は、Ctrlキーを押しながら選択してください。

2 メイン画面のツールバーの [リモコン] をクリックする
または、操作したいプロジェクターが1台の場合は、メイン画面のプロジェクターリスト上で操作したいプロジェクターをダブルクリックする

- “リモコン” ウィンドウが表示されます。

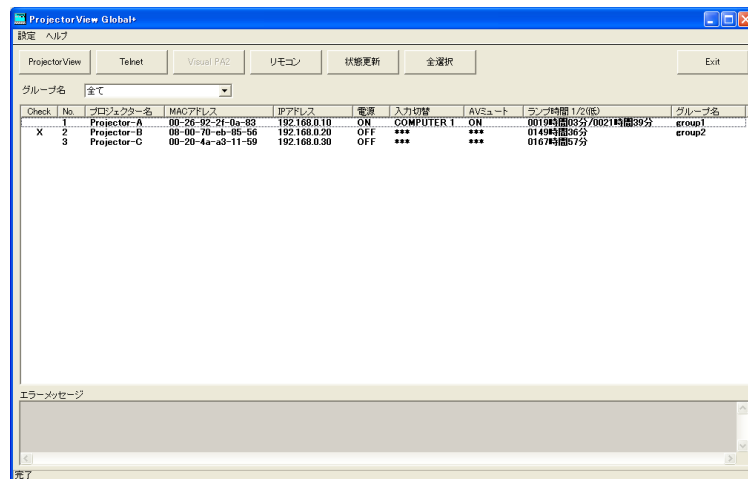
3 ウィンドウ上の各操作ボタンを選択して、プロジェクターを操作する

コマンド	ボタン	操作内容
電源	電源ON	プロジェクターの電源をONします。
	電源OFF	プロジェクターの電源をOFFします。
入力切替	COMPUTER 1	入力信号を「コンピュータ1」に変更します。
	COMPUTER 2	入力信号を「コンピュータ2」に変更します。
	VIDEO	入力信号を「ビデオ」に変更します。
	S-VIDEO	入力信号を「S-ビデオ」に変更します。
	HDMI	入力信号を「HDMI」に変更します。
	PC Less Presentation	入力信号を「PCレスプレゼンテーション」に変更します。
	USB Display	入力信号を「USBディスプレイ」に変更します。
	LAN Display	入力信号を「LANディスプレイ」に変更します。
Exit		“リモコン” ウィンドウを閉じます。

<注>

- 操作が完了するまでは、次の操作は行えません。
- プロジェクターの状態を再取得（リフレッシュ）中は、操作を行うことはできません。
- プロジェクターの機種により、対応する入力切替の種類が異なります。プロジェクターが対応していない入力切替は選択できません。

5.2. プロジェクターの状態を確認する

プロジェクターの状態は、メイン画面のプロジェクターリスト中に表示されています。

項目	内容
Check	盗難検知設定（ON/OFF）
No.	プロジェクターリスト登録番号
プロジェクター名	アプリケーション内で設定したプロジェクター名
MACアドレス	プロジェクターのMACアドレス
IPアドレス	プロジェクターのIPアドレス
電源	プロジェクターの電源状態（ON/OFF）
入力切替	プロジェクターの入力信号（コンピュータ1/コンピュータ2/ビデオ/S-ビデオ/HDMI/PCレスプレゼンテーション/USBディスプレイ/LANディスプレイ）
AVミュート	プロジェクターのミュート状態（ON/OFF）
ランプ時間1/2（低）	ランプモードを「低」にした場合の時間で換算したランプ使用時間（HHHH:MM） ランプが2つある機種は、左にランプ1、右にランプ2の使用時間を表示します。
グループ名	プロジェクターの所属グループ

- プロジェクターの状態は、定期的に自動で再取得（リフレッシュ）されますが、ユーザーの指示により、現在の状態を取得することもできます。メイン画面のツールバーの［状態更新］をクリックすると、各プロジェクターの電源、入力切替、AVミュート、ランプ時間1/2（低）の状態が再取得されます。
- Power OFFの状態やウォームアップ中、クーリング中では入力切替とAV ミュートは再取得されません。
- プロジェクターリストのステータスタグをクリックする（Macアドレスを除く）と、リストを並べ替える（ソートする）ことができます。再度クリックすると逆順に並べ替えます。
- ツールバーの［全選択］をクリックすると、プロジェクターリスト内の全プロジェクターが選択状態/未選択状態となります。
- プロジェクターの状態取得により何らかのプロジェクターの異常状態を検知した場合は、画面下部のエラーメッセージ表示欄に、エラーメッセージを表示します。

<注>

- 自動再取得の周期の初期値は、10分です。変更する場合は「3.1. システム設定をする」をご覧ください。
- 多数のプロジェクターが接続されている場合は、状態取得に時間がかかる場合があります。状態取得中は、メイン画面下部のステータスバーが“状態更新中...”となり、取得完了時に“完了”となります。

6. スケジュールを設定する

6.1. プロジェクターのグループを作成する

複数のプロジェクターをグループにまとめて、一括制御することができます。
また、各グループでは、曜日ごとに電源ON/OFFの時刻を設定できます。
電源ON/OFFのスケジュールはグループ単位で行われますので、同じスケジュールで稼働させたいプロジェクターを、同一グループにまとめてください。
設定を有効にすると、スケジュール一覧に電源ON/OFFの時刻設定内容が表示されます。

［例］ グループ "group1" に対して、月曜日の9:00に電源ONして同じ曜日の17:00に電源OFF、木曜日の8:30に電源ONして金曜日の17:40に電源OFFする時刻設定をするとき。

1 メイン画面のメニューバーの "設定" から "グループ新規作成" を選択する

- "グループ新規作成" ウィンドウが表示されます。

2 "グループ名" 欄に、作成するグループ名を入力する（半角英数記号で16文字以内）

3 電源ON/OFF時刻を設定する曜日を選択する

4 電源ON時刻を設定する場合のみ、"電源ON" 欄で電源ON時刻を設定し、"有効" にチェックを入れる

5 電源OFF時刻を設定する場合のみ、"電源OFF" 欄で電源OFF時刻を設定し、"有効" にチェックを入れる

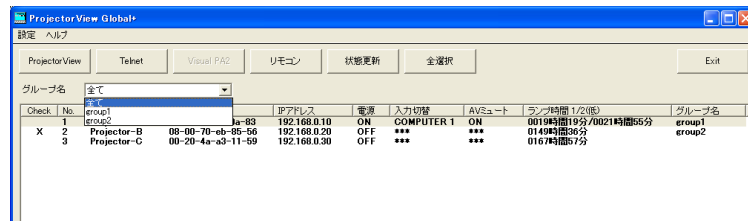
6 電源ON/OFF時刻を設定する曜日が複数ある場合は、手順3～5を繰り返す

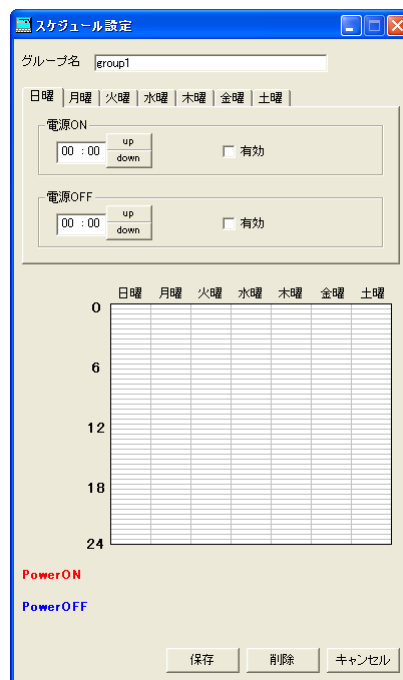
7 ［登録］をクリックする

6. スケジュールを設定する

<注>
- 電源ON時刻と電源OFF時刻を、同じ曜日の同一時刻に設定することはできません。
- スケジュール機能は、“ProjectorView Global+” が実行中のときに動作します。
- 制御するプロジェクター台数が多い場合など、状況によっては、電源制御が実施される時刻がスケジュールの設定時刻からずれる場合があります。
- インターネット上のサーバーを利用した自動時刻合わせ (NTP) 機能を利用している場合、スケジュールの設定時刻を飛び越してしまい、スケジュール動作が実行されない場合があります。

6.2. スケジュールの設定を変更する場合は

1 メイン画面のグループ選択プルダウンメニューから、変更したいグループを選択する

2 メイン画面のメニューバーの “設定” から “スケジュール設定” を選択する

- “スケジュール設定” ウィンドウが表示されます。

3 修正したい内容に合わせて変更を行い、[保存] をクリックする

- 修正した内容が反映されます。

6.3. グループを削除する場合は

1 メイン画面のグループ選択プルダウンメニューから、削除したいグループを選択する

2 メイン画面のメニューバーの "設定" から "スケジュール設定" を選択する

- "スケジュール設定" ウィンドウが表示されます。

3 ［削除］をクリックする

- 選択したグループが削除されます。

<注>

- グループを削除すると、該当グループに所属していたプロジェクターは、どのグループにも未所属になります。グループ設定ウィンドウで改めて所属グループを設定し直してください。

7. メールを設定する

盗難検知対象に設定しているプロジェクターとの通信が途絶えた場合は、指定したアドレスに警告メールを送信することができ、プロジェクター盗難の早期検知に役立てることができます。
なお、メール設定はプロジェクターごとやグループごとに設定することはできません。すべてのプロジェクターで同一の設定となります。

7.1. メールサーバーと接続する

ProjectorView Global+が動作しているコントローラーPCおよびプロジェクターが接続されているネットワークに、メールサーバーを接続してください。

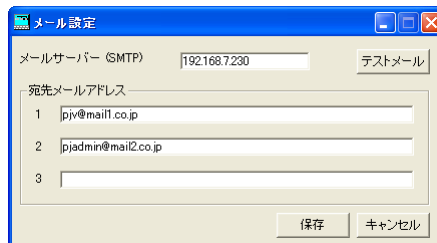
7.2. メールの設定を行う

メールサーバーのアドレスや、メール送信先のアドレスを指定します。

<注>

- ネットワーク環境については、ネットワーク管理者にご確認ください。

1 メイン画面のメニューバーの "設定" から "メール設定" を選択する

- "メール設定" ウィンドウが表示されます。

2 ネットワーク環境に合わせて設定項目を入力し、[保存] をクリックする

項目名	内容
メールサーバー (SMTP)	メールサーバーのIPアドレス (例:192.168.7.230) を入力します。 またはサーバー名 (例:mail.example.com) を入力します。
宛先メールアドレス	アドレスメール送信先のIPアドレスを、半角64文字以内で入力します。 (最大3カ所まで指定可能)

7.3. テストメールを送信する

メール設定ウィンドウの各項目の設定を完了後、メール送信先へ正しくメールが送信されるか、テストメールを発行することができます。メール設定ウィンドウの右上の [テストメール] をクリックすると、テストメールが発行されます。メール送信先に設定したアドレスに、正しくメールが届いているか確認してください。

<注>

- メール機能は、"ProjectorView Global+" が実行中のときに動作します。
- テストメールが正しく受信できなかった場合は、メールサーバーアドレスとメール送信先のアドレス、およびネットワークの接続状態を確認してください。詳しくは、ネットワーク管理者にお問い合わせください。
- メールサーバーの認証機能により、メール不達になる可能性があります。詳しくは、ネットワーク管理者にお問い合わせください。
- 盗難検知で監視しているプロジェクターとの通信が途絶えた場合、盗難確認エラーダイアログが出ます。
  ただし、プロジェクターリストの表示は、更新に時間がかかりますので、同時には更新されません。

8. その他

8.1. 故障かな?と思ったときは

● **プロジェクターが認識できない。**

ファイアウォールの設定により、プロジェクターを自動認識できない場合があります。その場合、ProjectorView Global+の通信を、ファイアウォールに例外として登録する必要があります。ファイアウォールの設定については、ファイアウォールを設定するソフトウェアのマニュアルをご覧ください。

● **リモコンによる操作がうまく反映されない。**

直前の操作が完了するまで、操作ができないことがあります。しばらく時間をおいてから、再度操作してください。また、IPアドレスなどのネットワーク設定が正しいかどうかを確認してください。

● **アプリケーションが“ 応答なし” となることがある。**

自動ステータス取得などの処理は時間がかかることがあるため、その間はアプリケーションを操作できず、“応答なし”と表示されることがあります。処理が終了するまで、しばらくお待ちください。

● **アプリケーションが操作できないときがある。**

プロジェクターの状態取得中は操作できません。プロジェクターの状態取得は、プロジェクターの主電源が入っていなかったり、実際に設置されていないプロジェクターが登録されていたりすると、タイムアウトを待つため、時間が長くなります。このような場合、不要なプロジェクターを登録から削除すると、取得時間を短くすることができます。

● **プロジェクターを制御できない。プロジェクターの状態が見えない。**

アプリケーションを再起動してください。改善されない場合は、プロジェクターのメニューで “ネットワーク初期化” を試してください。その場合プロジェクターの設定が初期値に戻りますので、再度設定が必要になります。

8.2. 対応プロジェクターについて

- 下記プロジェクターは、“Telnet” に対応しております。詳細はプロジェクター本体に同梱されている「LAN制御UTILITY」操作説明書をご参照ください。
- 下記プロジェクターをご使用の際は、プロジェクター本体に同梱されている「LAN制御UTILITY」操作説明書をご参照ください。

LVP-XD2000, LVP-XD1000, LVP-XL650, LVP-WL639, LVP-XL2550, LVP-MH2850, LVP-FL7000, LVP-WL6700, LVP-XL6600, LVP-XD3200, LVP-WD3300, LVP-MH2850R